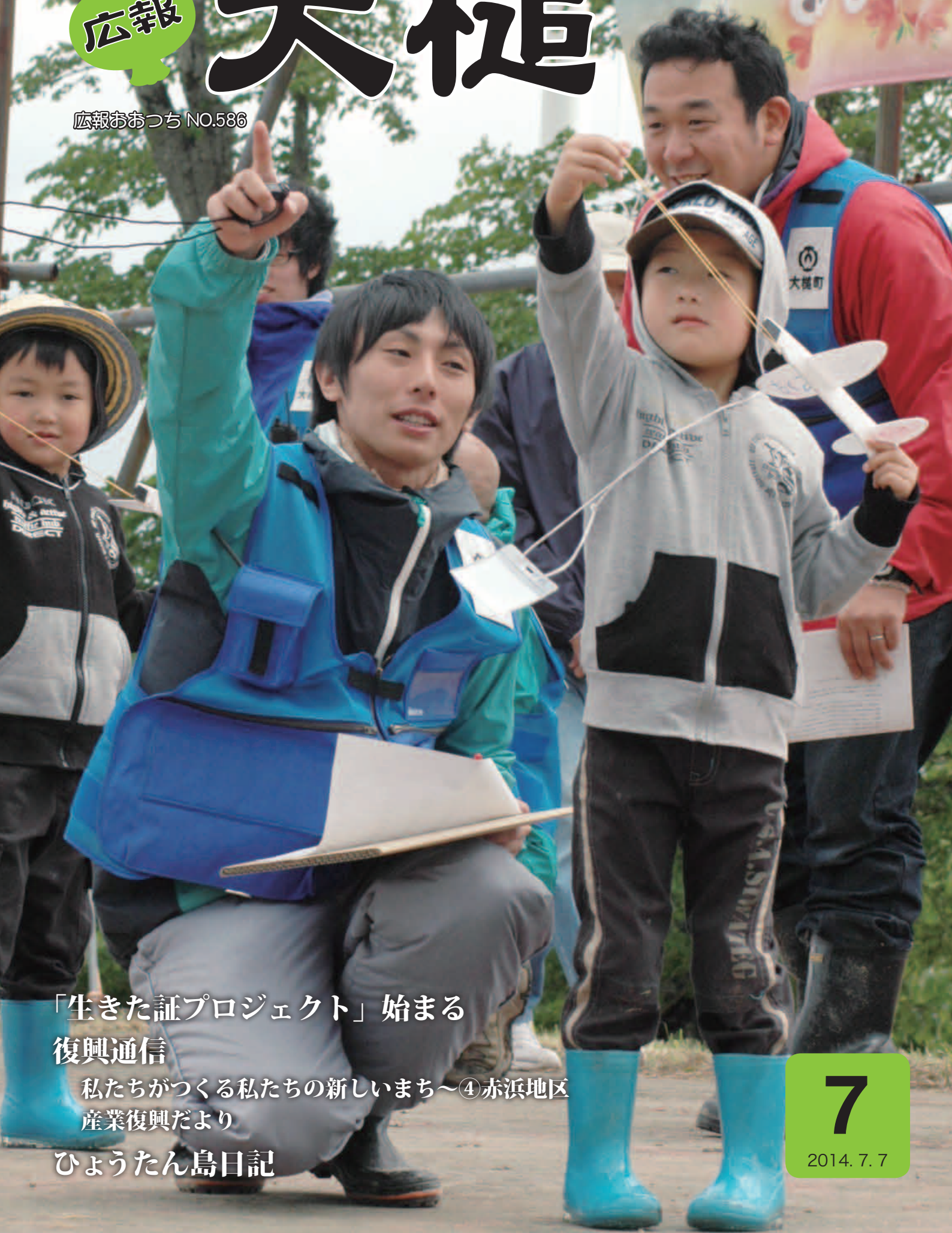


広報

# 大槌

広報おあつち NO.586



「生きた証プロジェクト」始まる

復興通信

私たちがつくる私たちの新しいまち～④赤浜地区  
産業復興だより

ひょうたん島日記

7

2014. 7. 7

## 目次

3 「生きた証プロジェクト」スタート	18	すくすく赤ちゃん PHOTO まちかど 町長随想
4-11 復興通信 私たちがつくる私たちの新しいまち ～④赤浜地区 復興を支える人 支える団体 産業復興だより 復興局からのお知らせ	19	ひょうたん島日記
12-16 総合政策課からのお知らせ ほか	20-21	教育委員会だより 城山の風 第77号
17 大槌町地域包括支援センターのページ 楽笑高齢者になろう ほか	22-23	まちのお知らせ 大槌町カレンダー
	24	大槌学のすゝめ 編集後記



第1回実行委員会は黙祷で始まりました＝5月30日、大槌町役場

このプロジェクト全体の調整は、遺族や町内会代表者、

プロジェクトは、関連死を含む1284人の犠牲者を対象に、2年間かけて遺族から話を聞き、その結果を記録集にまとめる事業です。具体的には、聞き取り対象者を知っている案内役、聞き手、記録員の3人1組、もしくは2人1組でチームを組んで町内を回り、「どんな人柄だったのか」「どんなエピソードがあったのか」などを聞き取ります。承諾が得られれば、音声も録音し、映像も撮影します。

「決してあなたを忘れない」  
町の「生きた証プロジェクト」始まる

震災で人口の1割近い12000人を超える人たちが犠牲になった大槌町で、犠牲者全員を対象にその人柄や功績などを取材し、記録として残す「生きた証プロジェクト」がスタートしました。町役場で5月30日に開かれた第1回実行委員会で碓川豊町長は「二度と同じような悲劇を繰り返してはならない。このプロジェクトは亡くなった方を忘れずに供養する意味でも、震災を検証する意味でも重要だ」とあいさつしました。(▼12ページにプロジェクトの概要)

表紙の写真：新山高原まつり＝6月15日、大槌町の新山高原（19ページ参照）



定点観測（2014年6月20日、城山から）

### 「大切な人のことを話すことが明日の力に」

高橋英悟実行委員会委員長インタビュー



「震災の犠牲者を思わずして真の復興はあり得ません。震災で、私たちは、とても大切な命を失いました。私たちが残された大切な人が喜ぶことではないでしょうか。残された私たちが大切な人の代わり生きていくという思いを新たにします。『生きた証』は、その原動力になるようなプロジェクトではないかと思っています」

「心の中で、どこか納得していない、やりきれない思いを抱えている人が、まだ、たくさんいらっしゃる。大切な人の命を失った人は、私たちが残された大切な命を失った人と同じように生きていくことを体験しました。人はいつ還るか分からない命を生きているという現実を感じました。だから、なおさら、生きていく命をむだにしたいのです。大切な人のことをお話しすることが、明日に向かって生きていく大きな一歩を踏み出す力になるだろうと、すごく感じています」

「震災で私たちは、想像もしていなかったことが起きるということを体験しました。人はいつ還るか分からない命を生きているという現実を感じました。だから、なおさら、生きていく命をむだにしたいのです。大切な人のことをお話しすることが、明日に向かって生きていく大きな一歩を踏み出す力になるだろうと、すごく感じています」

町議、学識経験者14名で構成される実行委員会が行います。第1回の実行委員会では、委員長に吉祥寺住職の高橋英悟氏（42）、副委員長に、震災で夫と役場職員だった娘を亡くした上野ヒデさん（72）が選ばれました。第1回実行委員会では、委員から次のような意見が出ました。

「大槌町では犠牲者を町全体で弔おうという雰囲気がある。自分たちも一緒に記録を作っていくと、多くの人が賛同してくれるのではないかと」

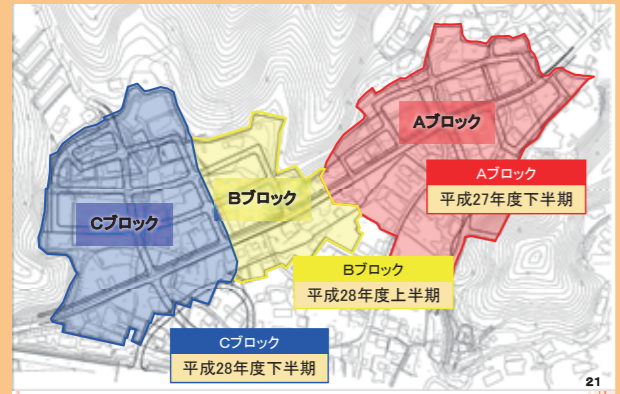
「記録は冊子のほかに、石に刻んで残す方法もある」

高橋委員長は「震災から3年を経過し、話すことで楽になるという人も増えていきます。残されたものが、犠牲者を忘れずしっかりと生きていくプロジェクトとして成功させたい」と語っています。

# 赤浜地区の復興まちづくり事業



## 土地区画整理事業 ブロック別住宅着工開始時期と 今後の整備スケジュール



## 防災集団移転促進事業 今後の整備スケジュール

項目	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期
団地① 北斜面	調査・設計 用地取得		調査・設計 用地取得	造成・インフラ工事	造成・インフラ工事	造成・インフラ工事	造成・インフラ工事	造成・インフラ工事
団地② 岩手県 交通署				仮設住宅移住				
団地③ 三日月 神社	調査・設計 用地取得		調査・設計 用地取得	造成・インフラ工事	造成・インフラ工事	造成・インフラ工事	造成・インフラ工事	造成・インフラ工事
団地④ 現業大 海洋研	調査・設計 用地取得		調査・設計 用地取得	造成・インフラ工事	造成・インフラ工事	造成・インフラ工事	造成・インフラ工事	造成・インフラ工事

項目	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期
都市計画 手続き等		都市計画 変更	都市計画 変更	都市計画 変更	都市計画 変更	都市計画 変更	都市計画 変更	都市計画 変更
関連工事			公民館・避難ホール建設工事	公民館使用開始予定				
赤浜地区 土地区画 整理事業			換地設計	換地設計	換地設計	換地設計	換地設計	換地設計
防災事業			換地設計	換地設計	換地設計	換地設計	換地設計	換地設計

親潮と黒潮がぶつかる三陸沿岸は、生物生産性と多様性が高い海域として世界的に知られています。赤浜地区には、東京大学大気海洋研究所の付属研究施設「国際沿岸海洋研究センター」があります。このセンターは1973（昭和48）年に設置され、以後、大槌湾をはじめ三陸の海の環境や生物について研究を行ってきました。「沿岸生態」「沿岸保全」「生物資源再生」「地域連携」の4つの研究室があり、4隻の調査船を所有しています。沿岸海洋学に関する基礎的研究を行うことを目的とし

### 震災後の生態系の変化調べる

### 美しい海の見えるまちづくり

大槌湾にぼつかり浮かぶひょうたん型の島、蓬萊島。その島を眺めるように岸壁に並ぶ数々の漁船。優れた海洋研究を続けている東京大学の大気海洋研究所。赤浜はこれらの地元の資源をどう活用し、復興に生かしていくのか。関係者に話を聞き、まとめました。

大槌町の復興まちづくりの骨格をまとめた「大槌デザインノート」によると、赤浜地区の復興計画の基本的な考え方は、「美しい海・ひょうたん島を眺めて暮らすまちづくり」です。具体的には、防潮堤は旧来の高さにとどめ、被災しなかった地域と一体になった住宅地を新たに形成します。海が見え、海に近づきやすい環境を保つ一方で、常楽院、八幡宮、三日月神社を避難の目印にして、災害時には機敏に避難できる空間を整えます。

現在、赤浜地区では、防災集団移転促進事業、土地区画整理事業、災害公営住宅整備事業が進められています。用地買収の達成率は土地区画整理事業で約80パーセント、防災集団移転促進事業では移転先の達成率が約54パーセントです。一人あたりの地権者が所有する土地が広く、契

約が成立すれば達成率は上がる見込みです。

今後のスケジュールは、防災集団移転促進事業では平成26年度下半期より造成・インフラ工事が開始されます。先行する東大気海洋研究所裏の「団地⑥」については、平成27年度上半期から、住宅や災害公営住宅の建設が始まり、下半期には入居が可能になる予定です。

土地区画整理事業では、A、B、Cの3ブロックに分け、Aブロックから順番に造成・インフラの工事が進められます。先行するAブロックは、平成26年度に造成・インフラ工事に着手、平成27年度下半期には住宅が着工出来るよう計画が進められます。Cブロックの造成・インフラ工事は、埋蔵文化財の調査が入る可能性があり、Bブロックとともに平成27年度から造成・インフラ工事が開始され、住宅着工はBブロックが平成28年度上半期、Cブロックが平成28年度下半期になる予定です。

高台の新たな居住エリアの中心には、日常の集いの場となり、災害時の避難場所となる公共施設（赤浜公民館・避難ホール）が配置されます。防潮堤は、高さ6・4メートルの既存施設を復旧させ、日常生活道路と避難路を兼ねたスロープや階段が設置されます。



「ひよっこりひょうたん島」のモデルとされる蓬莱島

赤浜地区では、震災の記録を、公民館の事業としてまとめています。2013（平成25）年3月には「大槌町赤浜地区住民 3・11大地震直後の軌跡」として住民の体験談をまとめました。震災の教訓を次世代に継承しようと、赤浜地区のほぼ全世界にあたる233人の証言を集めました。住民の聞き取り調査は赤浜公民館を中心に行われ、東京大学の都市デザイン研究室が協力しました。今年度は震災を視覚化することを目的に、地震が起きた直後の写真



「3.11 大震災直後の軌跡」

### 地区の住民全員が語り部に

の心に響き、人形劇の登場人物が一緒に課題解決に立ち向かう姿が震災復興へ向かう町民の姿と重なり合っで、共感を呼び起こしました。町では島を復興のシンボルとして、昨年8月、町の文化財に指定し、今年1月に購入しました。

「蓬莱島をきちんと整備し、陸中海岸のシンボルに、と思っています。今は瓦礫があつてちよつと危ない。きちんと整備して、ひょうたん島が奇麗になった際に、イベントもやっていきたい」と、「ひょうたん島復興プロジェクト」代表の岡本大作さんは話します。現在、このプロジェクトには赤浜地区に限らず20名ほどの会員が参加しています。

を中心にした冊子を発行する予定です。

赤浜公民館長の古館一義さんは「当事者として、住民の震災の風化を防ぎたい。事実をありのままに伝えるのが使命と思っています」と話しています。

「住む場所や環境がどのように変化しようと、自然は容赦しない。地元の人々が様々なことを理解して、知識を身につけたい。この知識を財産に、『3・11大地震直後の軌跡』の冊子を教本に、地区住民全員が語り部となり、震災のありのままを後世に伝えていきたい」



河村知彦教授

た全国の研究者のための共同利用・共同研究拠点となっていて、日本全国や海外からも多くの海洋研究者が訪れて研究が行われています。

震災後の三陸沿岸の生態系の変化を調査するために建造され、昨年秋季にお披露目された「新青丸」の母港が大槌に決まったのも、赤浜に大気海洋研究所があり、研究の実績を積み重ねてきたためでした。

震災で3階建ての大気海洋研究所は、2階まで水没しました。現在は、スタッフは11人、浸水を免れた3階で研究活動を続けています。

センター長の河村知彦教授は「生物資源再生分野」に所属していて、震災後に海の中で何が起きているか、アワビやウニなどがどのように変化したのかを調べています。「大槌にはこれまでここで研究してきたデータがたくさん残っており、地震によって海中で何が起ったのかを正確に知ることができません。これからどうなっていくのかきちんと研究していく必要があります」

大気海洋研究所は、これまで、地



研究船での調査



研究船「弥生」



潜水調査

※いずれも東京大学大気海洋研究所提供



公開講座

元との交流を深めてきました。子どもたちを対象にした勉強会やイベントには、大勢の参加者がありました。昨年10月には「大槌の海は今？」をテーマにした公開講座を開催しました。河村さんは「赤浜でセンターを復旧させ、町の財産となるような研究を続けていきたい。町民の方々にも私たちの研究を知ってもらいたい」と話しています。

### 「ひょうたん島」は復興のシンボル

蓬莱島は大槌湾に浮かぶ周囲200メートルほどの小島です。島の弁天神社に祭られている弁財天は、古くから「弁天様」と呼ばれ、豊漁と航行安全の守り神として敬われてきました。江戸時代には、藩主による領内巡検のコースに組み込まれており、当時から著名な景勝地であったことがうかがえます。

NHKの人形劇「ひよっこりひょうたん島」が1964（昭和39）年に放映されると、町民は、蓬莱島がそのモデルの島であると信じてきました。

その蓬莱島は、震災後、全国的に知られるようになりました。「ひよっこりひょうたん島」の主題歌の歌詞が、震災を乗り越えようとする町民

産業復興  
だより

# 「株式会社ナカシヨク」 ～広がる全国からの支援の輪～

大槌町に本社を置く「株式会社ナカシヨク」は、イカの唐揚げやサバ、サンマの竜田揚げなどを製造、販売する水産加工会社です。現在は、小枕に最新設備を備えた製造工場を構えて、大手スーパーマーケットなどに商品を納入しています。

震災前から大槌町で水産加工業を営んでいましたが、津波で建物や機械設備、在庫などすべての資産を失いました。「何とかしなければいけない。とにかくなりふり構わずだった」と当時を振り返る齊藤勲社長は、国の支援制度を活路にして加工場を完成させました。しかし、復興需要で建設費が高騰し、材料となる水産物を保管するための冷凍施設をあきらめなければなりません。

逆境の中で支えになったのは、全国各地からの支援でした。同じく被災した仲間同士で結成した「立ち上げ！ど真ん中・おおつち」プロジェクト。一口1万円で出資を募り、復興のために全国に手助けを求めました。この取り組みが全国紙で報じられると、全国各地から申し込みが殺到し、会社再建のための道筋が見えてきました。齊藤社長は、この時の支援あってこそ今のナカシヨクがあるのだと語ります。その後、別の支援制度を活用して平成25(2013)年4月には、念願の冷凍施設も完成し、本格的な再稼働にこぎつけました。

しかし、工場と冷凍施設は完成しましたが、ま

だまだ生産能力は十分ではありません。会社の成長のためには、規模の拡大が必要です。今後は、焼き魚や煮魚の商品を生産するための工場の建設を目指しています。まだまだ課題は山積していますが、齊藤社長には大槌町復興のためのアイデアがあります。それは、「産業まつり」の復活と、食に関連したイベントの同時開催です。もっと町にたくさんの人を呼び込まなければいけない。そして、「大槌」のブランド化を目指すべきだと齊藤社長。「いずれは、大槌町からB1グランプリに出場したい」と夢は広がります。



社長の齊藤勲さん

〒028-1121 大槌町小鉤 28-161-1  
TEL 0193-55-5450

\*「復興通信」では、産業復興に頑張る地元企業の姿などを伝えるコーナーを「産業復興だより」と題して毎号連載していきます。

## Topics 用地取得に司法書士来援～小山さん、川北さん着任

被災地の用地取得を支援するため復興庁が日本司法書士会連合会を通じて採用した2人の司法書士が大槌町に着任しました。5月2日に着任したのが香川県三豊市出身の小山純徳さん(66)。6月3日に着任したのが名古屋市出身の川北俊介さん(33)。それぞれの辞令交付式で碓川豊町長は「復興が加速するよう期待しています」と激励しました。

小山さんは30年間ほどの司法書士の経験があり、主に相続登記を手掛けてきました。震災で、友人の親戚が大槌で犠牲になったことから、大槌を希望して赴任してきました。一方、川北さんは同志社大学法学部を卒業後、名古屋市内の司法書士事務所に勤務し、被災地を支援したいと、派遣事業に応募しました。

小山さんは「困難があっても一つひとつ積み重ねていけば、道は開ける」、川北さんは「経験を生かし周りとの協力しながらやっていきたい」とそれぞれ抱負を語っています。

大槌町では買収予定地の所有者がわからなかったり、相続人が多数いて当事者間の話し合いに時間がかかったりして用地買収が難航しているケースが少なくありません。司法書士の来援や用地取得の迅速化をめざす復興特区法改正で、用地買収が円滑に進むことが期待されています。



用地課に配属された小山純徳さん(右)と川北俊介さん(左)＝大槌町役場

大槌町青年団体連絡協議会会長  
川端雄貴さん(25)

資源を生かし楽しめる町を

「子どもたちやお年寄りへの支援は、多くの人たちがやってくれている。ならば、僕たちは、ここに住んでいて良かった、楽しい、と思えるようなまちづくりをしていこうと活動しているんです」

連絡協議会のメンバーは20代から30代の8人。若者が楽しめるようバイクツーリングや山登りを企画したり、子どもたちに楽しみながら防災を学んでもらおうと創作した、ご当地ヒーロー「防災戦隊・ホウライオー」の衣装を身に付けて登場したりしています。



川端雄貴さん

川端さんは高校を卒業した後、埼玉県内の自動車整備士をめざす専門学校に進学し、専門学校を終わると、千葉県内で働きました。バイクが趣味でしたが、バイクで気軽に出かけられる場所が少なかったと言います。

若者が楽しめる企画をどんどん実行していきたいです。安渡の実家は被災し、仮設住宅で暮らしています。どのようになくなるかわかりませんが、どんな状況でも僕は楽しんで思う。ユーモアのある笑顔の素敵な人になりたい。自分のまちを知り、資源を生かして楽しむ」と川端さん。若い人たちの自由な発想が若者の定住につながっていく。そんな可能性が感じられました。

## 「復興を支える人 支える団体」

震災後、多くの個人や団体が大槌町の復興支援に取り組んでいます。被災者に寄り添い、ともに歩む、これらの人や団体を紹介します。

NPO法人  
まちづくり・ぐるっとおおつち

被災者を支援し多様な活動

町民が行政と協働してまちづくりを展開していく。そんな時代が来る。当時、町づくり活動をしてきた「和夢」というグループの若者たちを中心に平成13(2001)年7月に設立。御社地ふれあいセンターの運営管理を町から委託され、そこを拠点に文化活動を始め、地産地消をめざした活動や環境保全の活動などを展開してきました。

震災後は町外の支援団体と交流しながら活動の幅を広げてきました。被災者の生活支援を目的にした「おおつち人形」の制作と販売「福祉車」での買い物、通院の支援をしていました。現在は仮設住宅団地での野菜の移動販売、町民の手づくり品を一カ所に集め、おおつち人形も含めた販売、手づくり品の講習会も出来るマスト内の「ぐるっとおおつちショップ」の運営……。

多様な被災者支援活動の中で、地元の人に密着し、親しまれているのが「おおつちさいがいエフエム」です。町からの受託事業として運営する臨時の災害FMで、大槌弁で

大槌の現状や魅力を伝えていきます。震災の停電時に多くの人がラジオをよりどころにしています。

「人の声が聞こえるという安心感」広域にきめ細かい地域の情報を発信出来、多くの人が様々な状況下で情報を得られる。ラジオは助け合いの町には欠かせないという思いがあり、コミュニティFMへの自立をめざして活動しています。代表理事の小向幹雄さん(79)は「震災前より活動の幅は広がりましたが、顔の見える交流をはかるという軸は変わっていません。心豊かに、暮らしやすい、住みやすい幸福のあるまちに、という思いで活動しています」と話しています。



「おおつちさいがいエフエム」の収録風景

〒028-1121  
大槌町小鉤27-41-4  
TEL 0193(55)5221

## 災害公営住宅入居者募集（戸建てタイプ）

大ケ口二丁目第2町営住宅、榎内町営住宅（計36戸）の入居者を募集します。  
（大ケ口二丁目災害公営住宅・榎内町災害公営住宅）

- ◆申込期間 7月10日（木）から7月31日（木）
- ◆申込方法 入居申込書に必要事項を記入し、リ災証明書などを添付のうえ、役場1階に設置する災害公営住宅受付窓口にご提出ください。郵送による申し込みも受け付けます。※郵送の場合は7月28日（月）までの消印有効。
- ◆郵送による送付先 〒028-1192 岩手県上閉伊郡大槌町上町1-3  
大槌町 環境整備課 庶務管理班 宛  
（封筒に「災害公営住宅入居募集」と朱書きしてください）

◆募集する住宅（住宅名は仮称です。）

住宅名（仮称）	建物形式	入居の予定時期	間取り・戸数
大ケ口二丁目第2町営住宅	戸建て ・木造2階建て ・駐車場2台分あり ・ペット飼育可	平成26年10月	3DK 13戸 4DK 10戸 計23戸
榎内町営住宅	戸建て ・木造2階建て ・駐車場2台分あり ・ペット飼育可	平成27年1月	3DK 6戸 4DK 7戸 計13戸



大ケ口二丁目第2町営住宅イメージ



榎内町営住宅イメージ

◆入居申込ができる人

次の（1）から（7）までのすべての要件を満たしていることが必要です。

- （1）次のいずれかを満たす人であること。
  - ア. 東日本大震災により住宅が全壊した人
  - イ. 東日本大震災により住宅が大規模半壊もしくは半壊し、住宅の解体を余儀なくされた人
  - ウ. 東日本大震災により住宅が一部損壊し、修繕や補修では住宅の機能を回復できないとされ、住宅の解体を余儀なくされた人
  - エ. 東日本大震災により賃借した住宅の損傷を契機として、自己都合によらず退去せざるを得なくなり、住宅を失った人
  - オ. 東日本大震災の復興に伴い実施される国で定める事業（都市計画事業など）により、移転を余儀なくされた人
- （2）大槌町内で被災した住宅に居住していた人であること。
- （3）応急仮設住宅（みなし仮設を含む）などに居住しており、住宅に困窮している人であること。  
（現在、住宅料などを支払っている人は応募できません）
- （4）暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律第2条第6号に規定する「暴力団員」が世帯員にいないこと。
- （5）住宅再建に関する補助金（被災者生活再建支援金〈加算支援金〉など）を受給していない人であること。
- （6）不自然な世帯分離（離婚していない夫婦の別居など）をしていない人であること。
- （7）防災集団移転促進事業により整備された宅地に居住していない人であること。

- ◆申し込みができる間取り  
選考の際に、各間取りに設定された「想定人員」を考慮します。

入居者人数	3DK	4DK	優先される入居人員
1人	—	—	3DKは3人以上 4DKは4人以上
2人	○	—	
3人	◎	○	
4人以上	◎	◎	

「◎」…間取り適正の優先者 「○」…申込み可 「—」…申込み不可

○間取り適正について

各間取りに設定された想定人員において、入居が優先される人数のことです。

- ・3DKの場合は3人以上で居住される人が優先されます。
- ・4DKの場合は4人以上で居住される人が優先されます。

◆入居者の決定方法（詳しくは募集案内をご確認ください。）

1. 提出いただいた入居申込書の内容に基づき、間取り適正などの住宅に対する困窮度を踏まえて選考します。  
なお、応募戸数を上回った場合には公開抽せんにより決定します。
2. 選考及び抽選により入居の仮決定を行います。入居仮決定者には、町から仮決定通知と併せて必要となる提出書類の内容をお知らせします。
3. 提出された書類などにより入居資格の審査を行い、合格された場合、入居の決定をいたします。

◆申込書の配布

平成26年7月10日（木）から下記の場所で配布しています。町外に避難されている人などで、入居申込書を郵送希望の人は、下記の配布場所へご連絡ください。

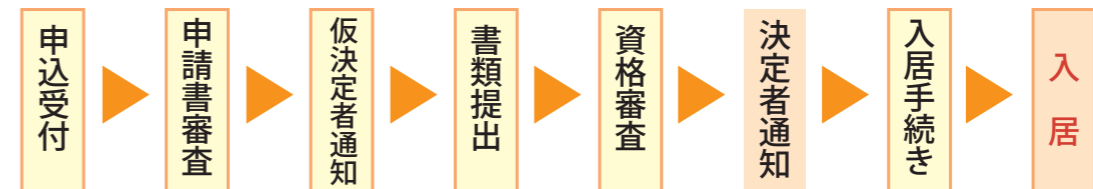
大槌町ホームページからダウンロードし、印刷することもできます。

([http://www.town.otsuchi.iwate.jp/bunya/saigai\\_koei/](http://www.town.otsuchi.iwate.jp/bunya/saigai_koei/))

【配布場所】

環境整備課 庶務管理班（役場2階） TEL 0193-42-8722

◆申し込みから入居までの流れ



なお、電気・ガス・水道・電話などの手続きは入居の決定後に、入居者が行います。

◆問い合わせ先 環境整備課 庶務管理班 TEL 0193-42-8722

### 津波復興拠点事業区域に伴う地区計画（案）の都市計画法の縦覧を行います

町では、町方・安渡の両地区における津波復興拠点事業区域の地区計画（案）について、町民の皆さまへ都市計画法に基づいた都市計画の案の縦覧を次のとおり行います。

◆大槌都市計画各案の縦覧

縦覧内容 町方・安渡地区（津波復興拠点）の地区計画（案）（大槌町決定）

縦覧期間 7月11日（金）～7月24日（木）（土、日も縦覧可）

縦覧時間 午前8時30分～午後5時15分

縦覧場所 復興推進課（役場2階）

※内容は、町ホームページでも縦覧することができます。

◆意見書の提出

都市計画案について、町に対して意見書を提出することができます。

意見書は、7月24日（木）までに、下記の縦覧場所へ提出してください。（郵送可：期日消印有効）

〒028-1115 大槌町上町1-3 大槌町役場 復興局 復興推進課

◆問い合わせ先 復興推進課 TEL 0193-42-8714

▼大槌町「生きた証プロジェクト」の概要

大槌町の「生きた証プロジェクト」の目的は、「忘れない」「犠牲者の供養」「災害記録の継承」の三点に集約されます。不条理に生を奪われた犠牲者の「生きた証」を記録に残すことで、町として、犠牲者一人ひとりを忘れずに供養し、震災を風化させずに後世に継承していくという強い意思を示します。

聞き取り調査は、死者805人、行方不明者429人、関連死50人、合わせて1284人(平成26年5月1日現在)の犠牲者全員を対象に行います。亡くなられた方々には、それぞれ、かけがえのない人生がありました。犠牲者に近い人に、犠牲者



実行委員会はプロジェクトの進行に合わせて折に触れて開くことにしています=5月30日、大槌町役場

のお人柄、経歴、生前のエピソード、犠牲者に贈る言葉などをお伺いし、故人の人生をたどり、記録します。聞き取りに当たっては、事前に了解を得るとともに、聞き取り調査に応じていただいた人が傷つくことのないよう、細心の注意を払います。

記録は紙媒体による記録集にまとめ、話をお伺いした方々にお渡しします。そのほか、話をお伺いした人の承諾を得て、設置が検討されている図書館(メディアアコモンズ)などで、震災記録の一つとして保存、公開することを考えています。

実行委員会は、このプロジェクト全体のかじ取り役を担います。プロジェクト全体を調整し、聞き取り調査対象者への案内役を紹介したり、プロジェクトの趣旨を町内に周知したりするのが役割です。調査が犠牲者全員を対象に行っていることから、委員は特定の地域に偏らないよう、町内各地区から入っていたいただきました。

また、プロジェクトを円滑に進めるために、4人の方々にアドバイザーをお願いしました。阪神淡路大震災の際、犠牲者の関係者から聞き取り調査し、その結果を冊子にまとめた神戸大学大学院の近藤民代准教授、大槌町東日本大震災検証報告書をまとめた防災都市計画研究所の吉川忠寛所長、それに今回のプロジェクトと同じような趣旨のもと、犠牲者を追悼する欄を紙面化した岩手日報社、朝日新聞社のそれぞれの担当記者の合わせて4人に助言をお願いしました。

このプロジェクトは、取材、編集業務を一括して外部に委託し、実施します。業務委託候補者の選定

にあたっては、町が作成した企画提案実施要項に基づき、公募形式プロポーザルを実施します。

プロジェクトは町民の理解なくして進めることは出来ません。そのため、町議会や町民に趣旨を広く知っていただくために周知期間を置き、今年秋ごろから調査に入ります。今年度内の中間報告を経て、来年の夏ごろまでに調査を終え、記録集の編集に取りかかる予定です。

総合政策課 Tel 0193(42) 8724

■大槌町「生きた証プロジェクト」 実行委員会委員の顔ぶれ

氏名	肩書
○上野 ヒデ (72)	町連合婦人会長
小林 敏子 (72)	町老人クラブ連合会事務局長
小林 一成 (74)	上町ふれあいセンター館長
中村百合子 (71)	安渡町内会副会長
菊池 公男 (75)	赤浜公民館運営委員会委員長
芳賀 衛 (66)	元消防団第3分団長
台野 宏 (69)	浪板地区自主防災会長
煙山 佳成 (75)	前町消防団長
◎高橋 英悟 (42)	吉祥寺住職、釜石仏教会事務局長
阿部 義正 (56)	町議会副議長
金崎 悟朗 (63)	町議会議員
三浦 論 (36)	町議会議員
麦倉 哲 (58)	岩手大学教授
窪田 亜矢 (45)	東京大学特任教授

(計14名、敬称略、◎委員長、○副委員長)

農林水産課からのお知らせ

▼大槌町漁業学校開催のお知らせ

漁業の新たな担い手を育成するための、「新規漁業就業者体験講座」と「新規漁業就業者本格養成講座」の参加募集を開始しています。

▼体験講座

町内で漁業を営んでみたいと希望する人が、大槌の漁業に関する初歩的な技術や知識、地域の実態などを体験し、理解を深め、新規就業のきっかけとなる機会を経験していただくための講座です。講習終了後は、次の「本格養成講座」にステップアップし、地元での漁業就業に備えることができます。

■受講対象者

大槌町の漁業に興味があり、就労意欲のあるおおむね50歳未満の健康な人

■講習期間

8月4日(月)から8月8日(金)

※今秋にも開催予定

■集合日時・場所

8月4日(月) 12時30分 大槌町役場へ集合

■定員 5名程度

■募集期間 7月25日(金)必着

■参加費 受講料無料。期間中の宿泊費※および傷害保険料は主催者で負担します

※朝夕食付。講習期間中は事務局が指定した宿泊施設にご宿泊いただきます

・大槌町までの往復旅費および宿泊費以外の生活費は各自の負担となります

■その他

・作業の際に着用する長靴、合羽、作業手袋は事務局が貸与します

▼新規漁業就業者本格養成講座

町内で漁業を営んでみたいと希望する人が、大槌の漁業に就業し、理解を深め、就業に必要な知識、技術の取得や資格を取得するための講座です。3か月間の講座終了後も地元漁業者の下で経験を積み、独り立ちを目指します。

■受講対象者

大槌町に定住し、漁業を営む意思があり、左記の条件を満たす人

・地域、漁業のルールを守る人

・自治会活動など地域行事に参加できる人

・体力に自信がある人

■講習期間

9月1日(月)から11月30日(日)【3カ月間】

■講習コース 本格養成講座受講申し込み時に希望する漁業種類(定置網漁業もしくは養殖業)を選択していただきます、受講と同時に乗組員として雇用します。

▼コース①定置網漁業

定置網漁獲物(サケ、サバ、イカなど)の水揚げ、選別、出荷作業、網の補修作業など

▼就業形態 乗組員として雇用

▼研修中の収入 約22万円/月(※保険料・税額控除前の金額)

▼コース②養殖業

ワカメ、カキ、ホタテガイ養殖に関わる作業全般(養殖施設の管理、収穫、加工、出荷作業など)

▼就業形態 従業員として雇用

▼研修中の収入 18・8万円/月を予定(※保険料・税など控除前の金額)

※漁船漁業への就業など、このほかの就業コースについて相談に応じます。

■定員 定置網漁業2名、養殖漁業4名の計6名

■募集期間 8月22日(金)必着

■参加費

受講料は無料。

■住居

研修期間中の住居については、自宅から通うのが困難な人には、無料で仮設住宅を提供します。

▼共通事項

・本格養成講座への参加を希望する人は、体験講座(8月4日~8日)への参加をおすすめします。都合により参加できない人は、ご相談ください。

・本格養成講座終了後に独立を希望される場合は、大槌町では独自の支援制度(就業奨励金など)を検討中です。お問い合わせください。

※定員に達し次第締め切らせていただく場合がございます。あらかじめご了承ください。

・詳細については、大槌町HPまたは、左記の問い合わせ先までご連絡をお願いします。

■申し込み方法

受講申込書をご記入いただき、郵送、FAXまたはEメールで期日までに事務局あてに申し込んでください。受講申込書は、大槌町HPもしくは事務局となる一般財団法人漁港漁場漁村総合研究所HPからダウンロードできます。

○大槌町HP <http://www.town.otsuchi.iwate.jp/>  
○漁港漁場漁村総合研究所HP <http://www.jffc.or.jp/>

■申し込み先・問い合わせ先

【事務局】一般財団法人漁港漁場漁村総合研究所  
Tel 03(5833) 3224  
FAX 03(5833) 3226  
E-mail shibata@jffc.or.jp (担当:石井、柴田)

## 保健福祉課からのお知らせ

### ▼臨時福祉給付金

平成26年7月1日(火)から、臨時福祉給付金の受付を開始します。6月末日ごろまでに、給付金の対象となる可能性がある世帯に申請書を郵送します。

※申請書が届いても給付金の対象とならない場合があります。

申請書が届いたら、案内文書をよくお読みいただき、必要事項を記入、押印のうえ、必要書類を添えて、保健福祉課窓口まで提出してください。なお、役場以外での申請書の受付場所については、申請書に同封しますので、日時・場所などをご確認いただき提出してください。

■受付期間 7月1日(火)から10月1日(水)

■受付時間 平日8時30分から17時15分まで

■給付時期 申請受付日の翌月末に指定口座に振り込みの予定です。(審査に日数を要し、振り込みが遅れる場合があります)

■提出書類など

○申請書(申請・受給者および支給対象者の押印が必要です。)

○本人確認書類(免許証などの写し)

○指定口座が確認できる書類(通帳などの写し)

○扶養者が町外に住所を有する場合は、非課税証明書

※その他必要に応じて確認書類の添付を求める場合があります。

■給付対象者 平成26年度分町民税(均等割)が課税されない人

ただし、次に該当する人は対象外です。

・ご自身を扶養している人が課税される場合

・生活保護制度の被保護者

## 町民課からのお知らせ

### ▼保険証などの更新について

#### 《医療費受給者証》

現在交付している医療費受給者証の有効期限は7月末です。受給者証の交付を受けている人は忘れずに更新してください。

医療費受給者証は、各医療費給付事業の対象となつている世帯の所得などを確認し、該当する人に交付しています。

該当者には、7月中旬に有効期間を更新した受給者証と「医療費受給者証交付(更新)申請書」を郵送します。同申請書の記載内容に変更がある場合は、7月中旬に町民課国保年金班に提出してください。変更が無い場合は、申請書の提出は不要です。

また、所得などが確認できない人には申請の案内を送付しますので必要書類を持参し、町民課国保年金班窓口で手続きしてください。

#### ■対象となる医療費給付事業

- ・乳幼児医療
- ・ひとり親家庭医療
- ・重度(心身障がい者医療
- ・すこやか子育て医療

#### 《国民健康保険高齢受給者証》

国民健康保険高齢受給者証は、平成26年8月1日で更新となります。今月下旬に新しい受給者証を郵送しますので平成26年8月1日以降は新しい受給者証をご使用ください。

■対象者 大槌町の国民健康保険に加入している70歳以上の人

《後期高齢者医療被保険者証 限度額適用・標準負担額減額認定証》

後期高齢者医療被保険者証は、平成26

※市町村民税が課税される収入(所得)がある人で、申告を行われていない人は、市町村民税の申告が必要です。

#### ■給付額

○給付対象者1人につき1万円

○給付対象者の中で次に該当する人は5000円を加算

・老齢基礎年金、障害基礎年金、遺族基礎年金などの受給者(※1)

・児童扶養手当、特別障害者手当などの受給者など(※2)

※1 平成26年3月分の受給権があり、かつ、4月分または5月分の年金の支払いがある人が対象です。

※2 平成26年1月分の手当などを受給している人が対象です。

■申請先 申請先は、基準日(平成26年1月1日)に住居登録されている市町村

■その他

原則として、申請期間外の申請は受け付けられません。また、平成26年1月1日時点で大槌町に住居のない人の申請は、受け付けられませんのでご注意ください。

### ▼子育て世帯臨時特例給付金

平成26年7月1日(火)から、子育て世帯臨時特例給付金の受付を開始します。6月末日ごろまでに、該当世帯に申請書を郵送します。申請書が届いたら、案内文書をよくお読みいただき、必要事項を記入・押印のうえ、提出書類を添えて、大槌町保健福祉課窓口まで提出してください。なお、役場以外での申請書の受付場所については、申請書に同封しますので、日時・場所などを確認いただき

き提出してください。

■申請受付期間 7月1日(火)から10月1日(水)

■窓口受付時間 平日8時30分から17時15分まで

■給付時期 申請受付日の翌月末に指定口座に振り込みの予定です。(審査に日数を要し、振り込みが遅れる場合があります)

■提出書類など 申請書

※児童手当の振込先指定口座以外の支払いを希望される場合は、免許証など本人確認書類、金融機関の通帳などの写しが必要となります。

■給付対象者 基準日(平成26年1月1日)における平成26年1月分の児童手当の受給者で、その前年の所得が児童手当の所得制限額に満たない方

■対象児童 給付対象者の平成26年1月分の児童手当の対象となる児童

※ただし、臨時福祉給付金の対象者および生活保護の被保護者などは除く。

■給付額 対象児童1人につき1万円

■申請先 申請先は、基準日に住居登録されている市町村

■その他

原則として、申請期間外の申請は受け付けられません。また、平成26年1月1日時点で大槌町に住居のない人の申請は、受け付けられませんのでご注意ください。

■「臨時福祉給付金」と「子育て世帯臨時特例給付金」の両方を受け取れることはできません。受け取ることができるのは、どちらか一つの給付金です。

◎平成26年4月から、申請時点から2年1カ月前までの期間についてさかのぼって免除申請することができます。24年度分まで未納期間がある人はこの機会に免除申請をご検討ください。

【申請手続きの方法】

■申請場所 町民課(役場1階)

■必要書類

①基礎年金番号の分かるもの(年金手帳・納付書など)

②ハンコ

③「雇用保険受給資格者証」または「離職票」の写し(失業などにより、免除などの申請を行なう場合)

※ご不明な点がありましたら、町民課国保年金班または、宮古年金事務所までお問い合わせください。

町民課 国保年金班

Tel 0193(42) 8713

宮古年金事務所

Tel 0193(62) 1963

### ▼国民年金保険料免除・納付猶予制度について

国民年金には、所得の減少や失業などで経済的に保険料の納付が困難な場合、申請によって国民年金保険料の納付を免除または猶予する制度があります。26年度の国民年金保険料の免除申請は7月から受け付けています(免除の承認期間は、7月から翌年の6月までです)。保険料の免除を希望する人は申請の手続きをしてください。

・免除申請の場合は、「申請者本人、申請者の配偶者、世帯主」のそれぞれの前年所得、納付猶予申請の場合は、「申請者本人、申請者の配偶者」のそれぞれの前年所得の審査を行います。

・未申告の場合は審査できませんので、必ず毎年所得の申告をお願いします。

・他市区町村から転入した人

・ご本人、配偶者または世帯主(納付猶予申請の場合は「本人と配偶者」で、平成26年1月2日以降に大槌町へ転入した人は、平成26年1月1日に住民登録していた市区町村から、前年の所得証明書を取り寄せ添付していただく必要があります。

き提出してください。

■申請受付期間 7月1日(火)から10月1日(水)

■窓口受付時間 平日8時30分から17時15分まで

■給付時期 申請受付日の翌月末に指定口座に振り込みの予定です。(審査に日数を要し、振り込みが遅れる場合があります)

■提出書類など 申請書

※児童手当の振込先指定口座以外の支払いを希望される場合は、免許証など本人確認書類、金融機関の通帳などの写しが必要となります。

■給付対象者 基準日(平成26年1月1日)における平成26年1月分の児童手当の受給者で、その前年の所得が児童手当の所得制限額に満たない方

■対象児童 給付対象者の平成26年1月分の児童手当の対象となる児童

行政相談委員の若生晃さんが東北管区行政評価局長表彰を受賞



行政相談委員の若生晃さんが、5月22日に東北管区行政評価局長表彰を受賞しました。

行政相談委員は、地域住民の身近な相談相手として総務大臣から委嘱され、行政に関する苦情や要望を受け付け、関係機関への通知や照会、皆さまへの解決に向けた助言を行います。

若生さんは、平成15年から現在まで行政相談委員として活躍しており、業績が顕著であると認められ、今回の受賞となりました。

行政相談は、毎月1回役場において相談所を設置しておりますので、お気軽にご相談ください。相談は無料、秘密は守られます。

#### 総務課総務班

Tel 0193(42) 8710

については、通帳と届出印をお持ちになり、町指定の金融機関でお申し込みください。

また、今年度からコンビニエンスストアで保険料が納付できるようになりました。納期限内であれば全国各地のコンビニエンスストアの営業時間内に曜日や時間を気にすることなく納付ができますし、手数料はかかりませんのでご利用ください。

#### 町民課 国保年金班

Tel 0193(42) 8713

#### 長寿課 介護班

Tel 0193(42) 8161

## 生涯学習課からのお知らせ

▼高齢者生きがいセミナー・女性のひろば第2回講座受講生を募集します

○第2回講座 ピラティスをはじめよう  
く正しく美しい姿勢を身につけ、若々しく生活しましょう

■日時 7月27日(日) 15時から16時30分

■会場 大ケ口多目的集会所

■持ち物 体の下に敷くバスタオル、枕代わりに使用するタオル、水分補給の水

■受講料 無料

■対象 町内在住または在勤の60歳以上の人、または女性 ※定員は12名です

■申し込み

7月25日(金) 17時までに、氏名・年齢・電話番号・住所を生生涯学習課にご連絡ください

生涯学習課 Tel 0193(42) 2300





ここでは、高齢者に関する様々な話題を掲載しています。

## 家族介護教室とは

大槌町地域包括支援センターでは、介護をしている家族や介護に関心を持つ人を対象に、毎年家族介護教室を開催しています。

これまで教室では、理学療法士を講師に迎え、介助法を学んだり、福祉用具の紹介、介護サービスの勉強会を行いました。

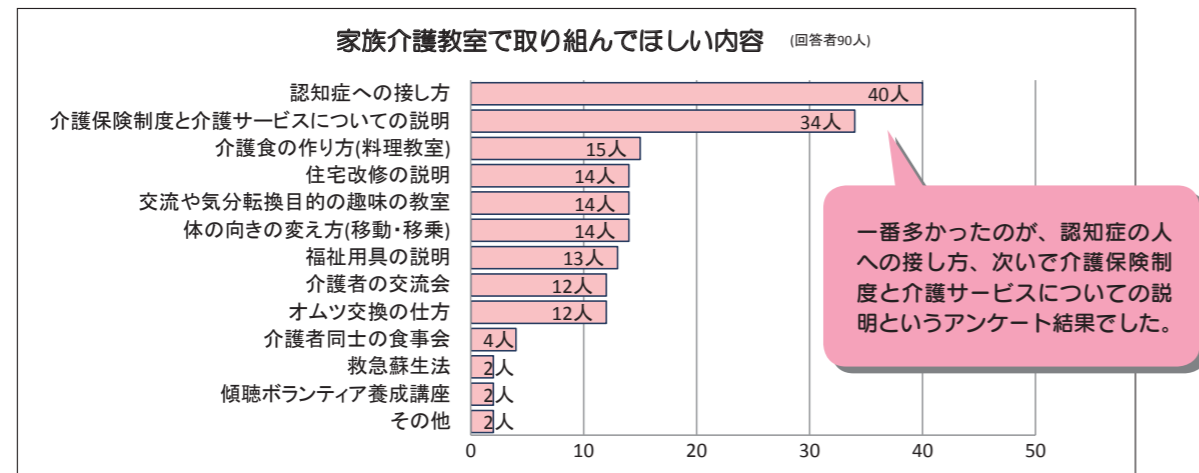
また、介護者同士の交流の場となり、介護について不安や悩みを介護者同士で話すことで、「自分だけではない」と気持ちが楽になる効果もあります。



家族介護教室等の事業の充実に繋げることを目的として、家族介護者アンケートを平成26年2月に実施しました。回収対象者351名中144名の回答をいただき回収率は41.0%でした。アンケートの結果をもとに、今後、事業充実につなげてまいります。アンケートにご協力いただきありがとうございました。

家族介護教室についてのアンケートの一部をご紹介します。

### 家族介護教室で取り組んでほしい内容について（複数回答可）の結果報告



一番多かったのが、認知症の人への接し方、次いで介護保険制度と介護サービスについての説明というアンケート結果でした。

平成26年度第1回家族介護教室は、認知症をテーマに認知症対応型デイサービス・認知症対応型グループホーム「城山の杜」の施設見学などを8月末に予定しております。後日、広報でお知らせします。ぜひ、ご参加ください。

◎ 大槌町地域包括支援センター Tel. 0193-42-8716

## 熱中症にご注意ください

熱中症の発生は7～8月がピークになります。熱中症を正しく理解し、予防に努めてください。

### ■熱中症とは

- ・高温多湿な環境下で、体内の水分や塩分のバランスが崩れたり、体温調節機能がうまく働かないことにより、体内に熱がたまり、筋肉痛や大量の発汗、さらには吐き気や体のだるさなどの症状が現れ、重症になると意識障害などが起こります。
- ・気温が高い、湿度が高いなどの環境条件と、体調が良くない、暑さに体がまだ慣れていないなどの個人の体調による影響とが組み合わさることにより、熱中症の発生が高まります。

### ■熱中症予防のポイント

- ▶暑さを避けましょう 外出はなるべく涼しい時間に出かけるようにし、日傘をさしたり帽子をかぶったりするようにしましょう。室内では室温が28℃を超えないよう、扇風機やエアコンを使った温度調整、こまめな換気、すだれ、打ち水など室温が上がりにくい環境の確保を心がけましょう。
- ▶自分の体調に気をつけましょう 前の晩に深酒をした人や朝食を抜いた人、また風邪を引いている人や下痢などで脱水症状の人は熱中症を起こしやすいので、体調が回復するまでは無理をしないようにしましょう。
- ▶こまめに水分補給をしましょう のどが乾く前に水分補給をすることが大切です。ただし、アルコールは尿の量を増やして体内の水分を排出してしまい、逆に危険です。
- ▶小さい子どもや高齢者は屋内での熱中症にも注意しましょう 熱中症は屋内でも起こります。小さい子どもや高齢者、病人がいる家庭では、適切に扇風機やエアコンを利用する、風通しの良い涼しい衣服を着せる、のどが渇いていなくても早めに水分補給をするなど、特に注意しましょう。
- ▶各種情報を参考に、熱中症への十分な対策をしましょう 環境省は、環境省熱中症予防サイトにおいて「暑さ指数」の情報提供を行っています。暑さ指数とは、気温だけでなく、湿度、日射などからの熱についても取り入れた指標です。大槌町では、暑さ指数が25℃以上に達すると予想される日に、防災行政無線で注意を呼びかけています。

◎ 保健福祉課 健康推進班 Tel. 0193-42-8715

## 健診・相談・予防接種

健診・相談を下記のとおり実施します。会場は大槌町仮設保健センター（寺野）です。また、予防接種を受ける際には、予診票と母子健康手帳を忘れずにお持ちください。※日本脳炎のみ会場が役場多目的集会所

### 【4・7ヵ月児相談】

- 実施日 7月7日(月)
- 対象者 平成25年12月生まれ及び平成26年3月生まれ
- 受付時間 9:30～10:00 (平成25年12月生まれ)  
13:30～14:00 (平成26年3月生まれ)

### 【日本脳炎予防接種】

- 接種日 7月12日(土)、15日(火)、19日(土)、29日(火)
- 対象者 対象者には個別に通知しています。
- 受付時間 13:00～13:20
- 会場 役場多目的集会所(役場隣の体育館)

### 【1歳6ヵ月児相談】

- 実施日 7月18日(金)
- 対象者 平成24年12月生まれ及び平成25年1月生まれ
- 受付時間 12:00～12:30

### 【四種混合(ジフテリア・百日ぜき・破傷風・ポリオ)予防接種】

- 接種日 7月25日(金)
- 対象者 平成19年2月生まれ～平成26年4月25日以前生まれ(生後3ヵ月～生後90ヵ月)
- ※三種混合とポリオの予防接種を一度も接種していない人
- 受付時間 13:00～13:20

### 【2歳6ヵ月児相談】

- 実施日 7月16日(水)
- 対象者 平成23年12月生まれ及び平成24年1月生まれ
- 受付時間 13:30～14:00

◎ 保健福祉課 健康推進班 Tel. 0193-42-8715

## 平成26年度65歳到達者健康教室のご案内

長寿課では、65歳に到達した人に介護保険証を交付することと併せて、介護保険制度や介護予防に関する説明会「65歳到達者健康教室」を開催しています。

- 対象者 ①大槌町に住所を有する人で65歳を迎える人(対象者には個別にご案内を送付します)  
②介護保険制度や介護予防に関心をお持ちの人(年齢に関わらずご参加いただけます)

■会場および日程※日程が変更となる場合があります。対象者②に該当する人は事前にご確認ください。

対象者	開催日	会場
昭和24年7月2日～8月1日生	7月15日(火)	役場3階 中会議室
昭和24年8月2日～9月1日生	8月19日(火)	役場3階 小会議室4・5
昭和24年9月2日～10月1日生	9月17日(水)	役場3階 小会議室4・5

■時間 13:30～14:30 ■持ち物 介護予防チェックリスト・高齢者台帳(対象者①の方のみ) ■申込み 不要

- 内容 ・65歳に到達した人に介護保険証の交付・介護保険制度・サービス利用についての説明  
・介護予防についての説明・大槌びんころ体操

◎ 長寿課 地域包括支援班 Tel. 0193-42-8716

## 健康相談のお知らせ

仮設住宅の集会所や談話室などを定期的に巡回し、公益財団法人 岩手県予防医学協会の保健師・看護師らが血圧測定や健康について相談に応じます。仮設住宅にお住まいの人だけでなく、どなたでも参加できますので、お気軽においでください。

### ■7月の日程

開催日	時間	場所
7月1日(火)	11:00～12:00	吉里吉里第4仮設団地
	13:30～14:30	吉里吉里第5仮設団地
7月4日(金)	11:00～12:00	小釜第16仮設団地
	13:30～14:30	小釜第6仮設団地
7月7日(月)	11:00～12:00	小釜第12仮設団地
	13:30～14:30	小釜第15仮設団地
7月8日(火)	11:00～12:00	赤浜第3仮設団地
	13:30～14:30	赤浜仮設団地
7月9日(水)	11:00～12:00	安渡第2仮設団地
	13:30～14:30	安渡第3仮設団地
7月10日(木)	11:00～12:00	金澤仮設団地
	13:30～14:30	大槌第12仮設団地
7月11日(金)	11:00～12:00	小釜第3仮設団地
	13:30～14:30	小釜第4仮設団地
7月14日(月)	11:00～12:00	大槌第5仮設団地
		大槌第10仮設団地
		大槌第8仮設団地
7月15日(火)	11:00～12:00	吉里吉里第6仮設団地
	13:30～14:30	小釜第20仮設団地

開催日	時間	場所
7月16日(水)	11:00～12:00	小釜第17仮設団地
		小釜第5仮設団地
7月17日(木)	11:00～12:00	小釜第8仮設団地
		小釜仮設団地
7月18日(金)	11:00～12:00	大槌第3仮設団地
		大槌第4仮設団地
7月22日(火)	11:00～12:00	大槌仮設団地
		大槌第9仮設団地
7月24日(木)	11:00～12:00	吉里吉里第2仮設団地
		吉里吉里仮設団地
7月25日(金)	11:00～12:00	吉里吉里第4仮設団地(※)
		吉里吉里第5仮設団地(※)
7月28日(月)	11:00～12:00	小釜第12仮設団地(※)
		小釜第6仮設団地(※)
7月29日(火)	11:00～12:00	小釜第16仮設団地(※)
		小釜第15仮設団地(※)
7月30日(水)	11:00～12:00	赤浜第3仮設団地(※)
		赤浜仮設団地(※)
7月31日(木)	11:00～12:00	安渡第2仮設団地(※)
		安渡第3仮設団地(※)

(※)印は、個別の健康相談を実施します(予約制)。予約がない場合は、通常健康相談を実施します。

◎ 保健福祉課 健康推進班 Tel. 0193-42-8715

# ひょうたん島日記

## 4年ぶりに新山高原まつり ～郷土芸能や紙飛行機コンテスト～

震災で休止していた大槌町の「新山高原まつり」が4年ぶりに復活しました。6月15日、新山高原で開かれた祭りでは、自作の紙飛行機による滞空時間コンテストやもちまきがあり、神楽、虎舞、鹿子踊が勇壮、華麗な舞を見せました。

新山高原は町の西端に位置し、標高、約1千メートル。オレンジ色が鮮やかなレンゲツツジが群生し、一帯には、風力発電用の巨大な風車が43基あることで知られています。展望台には望遠鏡が設置され、大槌湾を間近に見ることができます。

オープニングセレモニーで碓川豊町長は「震災で途絶えていた祭りの復活は感無量」とあいさつ。主催した町観光物産協会の千代川茂会長は「震災から3年がたち、やっと祭りが開催できる環境が整った。新山高原まつりは、これから毎年、開いていきたい」と話しました。

郷土芸能は安渡大神楽、大槌城山虎舞が演舞し、鹿子踊は白澤、金澤、上京、吉里吉里、徳並の5団体がそろって群舞しました。5団体が公式の場で



一緒に舞うのは初めてことで、祭りを通じて友好の輪を広げました。

滞空時間の長さを競い合う紙飛行機のコンテストは日本紙飛行機協会の協力を得て行われました。自作の紙飛行機を風に向かって飛ばします。風に乗ることができるかどうか滞空時間に影響します。指導した日本紙飛行機協会事務局長の荒木敏彦さんは「自然と向き合い、科学する心を養います。多くの人に親しんでほしい」と話しました。

ツツジは花の盛りを過ぎていましたが、参加者は、新緑の高原で、ゆったりとした時を過ごしました。

## あなたの悩みをお聞かせください ～町内に傾聴ボランティア団体誕生～

大槌町の傾聴ボランティア団体「ひまわり」の発足式が6月7日、町中央公民館でありました。町内で傾聴ボランティア団体が誕生するのは初めてです。メンバーは14人。昨年2月から延べ32時間の養成講座を受講し、傾聴の技法やコミュニケーションの取り方を学びました。近く、町内に点在する仮設住宅を回る活動をスタートさせます。

傾聴ボランティアは1970年代に米国カリフォルニア州で始まったとされています。日本では99年にNPO法人ホールファミリーケア協会が設立されて養成講座が開かれ、全国に広がりました。

基本は悲しみや苦しみを抱えた人たちの話をひたすら聴くことです。ストレスを吐き出すことで心が軽くなります。共感してくれる相手がいることで生きる力がわいてきます。

話を聴くことはそう簡単なことではありません。技術が必要になります。相手の目を見て、笑顔で相づちを打ちながら聴きます。口を挟んだり、指示し



たりはしません。会話が途切れた時は、無理に続けようとはせずに待ちます。

大槌町は震災で壊滅的な打撃を受けました。被災者は町内48カ所の仮設住宅で不便な生活を強いられています。震災から3年3カ月を経過し、落ち着きを取り戻した被災者がいる一方で、心の傷を抱えたままの被災者が少なくありません。この日の発足式で、「ひまわり」代表の小林正造さん(66)は「震災からまだ立ち上がれない人もいます。仮設住宅を回り被災者の気持ちに寄り添いながら活動したい。地域に笑顔を取り戻したい」と抱負を述べました。

## すくすく 赤ちゃん

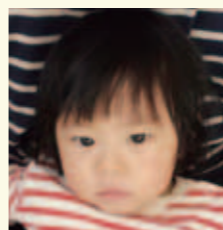
このコーナーでは、町内の1歳前後の赤ちゃんを紹介しています。今月は平成25年3月から5月生まれの赤ちゃんです。



かわばた はじめ 川端 創くん  
平成25年3月21日生  
これからも、すてきな笑顔で家族を癒してね!!  
(家族代表者名:川端 和英)



あべ いっ さ 阿部 一 嵯くん  
平成25年5月6日生  
じっちゃんばの事が大好きでいつも楽しそう♡  
(家族代表者名:阿部 長祐)



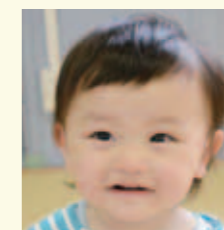
ざい つ わ か 材津 和花 ちゃん  
平成25年5月8日生  
口癖は「わんわん」  
食べるの大好きな女の子  
(家族代表者名:材津 祐貴)



うす さわ かい 白澤 快くん  
平成25年5月9日生  
甘えん坊な弟は、兄ちゃんが大好きです!  
(家族代表者名:白澤 竜彦)



み うら ゆう と 三浦 夢 翔くん  
平成25年5月23日生  
最近、おしゃべりいっぱい♡  
わんぱくな男の子!!  
(家族代表者名:三浦 哲也)

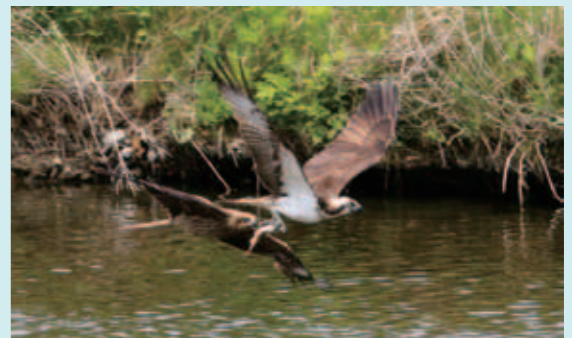


さわ だて ゆう き 澤館 優輝くん  
平成25年5月26日生  
誰にでもニコニコ。よく食べ、よく動く元気いっぱいみんなのアイドルです  
(家族代表者名:澤館 満)

## PHOTO まちかど



「線路内に立ち入らないよう」R山田線・大槌駅周辺に張り巡らされた木柵の一部です。津波で多くが流され、数本、残りました。子どもの頃、木柵をくぐり抜け、線路上でよく遊んだものです。復興が進めば、これらの遺構も姿を消すことでしょう」  
【6月1日、伊藤陽子さん撮影】



「小鉾川で撮影したミサゴとトンビです。アユか、アカハラでしょうか。ミサゴが捕まえた小魚をトンビが狙っています。この時は、トンビに油揚げをさらわれないで済みました。争奪戦にはカラスも加わることがあります」  
【5月24日、三浦寧史さん撮影】

## 町長随想

### ⑭ 逆境に揺るがぬ伝統と秩序

FIFAワールドカップがブラジルで開催され、早朝からのテレビ観戦で寝不足気味のサッカーファンも多かっただろう。その中、日本人のある行動が世界の多くのサッカーファンから注目を浴びた。試合終了後、敗退という試合結果に落胆しながらも、日本人サポーターが皆で客席のゴミ拾いを行ったことについて、世界の国々から日本人の行動に表れた伝統的な礼儀正しさを称賛する声が上がったのだ。

話は変わるが、東日本震災の2011年3月11日、『サンダルで歩いたアフリカ大陸 特派員ルポ』(岩波書店)の著者、毎日新聞記者の高尾具成氏は、内戦が続くアフリカ大陸北端のリビア北東部にいた。内戦では自らが戦地に赴く身である兵士から、被災地で被災された方々が互いに助け合いながら行動していることについて称賛と励ましを受けたという。

兵士は「極限の中でも利己的にならずに助け合う被災者を見て、必ず立ち上ることを確信している」という言葉を贈ってくれたという。

日本人の「おかげさまで」「ありがとうございませした」といった感謝の気持ちを大切にす文化や、礼儀正しさ、他者を敬う姿勢など、個人よりも他者や全体を思いやる伝統的な秩序は人々の深いところで水脈のように滔々と流れている。日本人のそのような秩序を重んじる態度が、他国から称賛されることを我ながら誇らしく思う。

東日本震災から3年3カ月が経過した。応急仮設住宅で不自由な生活をしている住民は限界を感じている。しかしその中でも秩序を保ちながら歯を食いしばり耐えている姿には、ただただ頭が下がる思いである。「町長とお茶っこの会」では、言いたいことは一杯あるはずなのに、逆に励まされるばかりだ。心から一日も早い復興を成し遂げたい。

碓 川 豊



# 城山の風

発行：大槌町教育委員会 第77号 26. 7. 7  
岩手県上閉伊郡大槌町小槌 32 金崎 126 TEL 42-6100

教育行政基本理念

町づくりは  
人づくりにあり  
人づくりは  
教育にあり

## 小中一貫教育・学校と地域とでつくる学びの応援団

### 学校支援地域協議会が開催される

学校支援地域協議会は、学校を支援するため、学校が必要とする活動について地域の方々をボランティアとしてお願いするための組織で、いわば地域につくられた学校の応援団です。

学校支援地域協議会では、地域の方々の中から、学校や地域のことに詳しい人を「学校支援コーディネーター」として配置し、学校が手伝ってほしいことと、地域の方が手伝いたいことを結びつける仕組みをつくっています。大槌町が推進する小中一貫教育でも、地域の方が学校や子どもたちの教育に関心を持ち積極的に参加していただくことがとても重要です。

#### ▶ねらい

学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制を整えることが目的です。



#### ▶子どもたちの教育をよりよいものにします

地域のいろいろな大人が学校の教育活動に関わることで、多様な体験、経験の機会が増えたり、多くの大人が子どもたちを見守ることで、よりきめ細やかな教育ができます。

#### ▶生涯学習社会を実現します

地域住民が、自らの経験や知識を未来を担う子どもたちの教育に生かすことができます。これにより、生涯学習の成果を生かす場が広がり、自己実現や生きがいづくりにもつながります。

#### ▶地域の教育力が向上します

地域住民が学校の教育活動に関わることで、地域の活性化や学校を核とした地域づくりにもつながります。

今年度第1回の協議会は、6月4日に開かれ参加者の多くから今後の活動に対する期待や内容の充実のための積極的な提案や教育振興運動との関連などの意見が出されました。

### 町方遺跡発掘調査現地説明会を開催します

教育委員会では、町方区画整理事業の推進に伴い遺跡の発掘調査を行っていますが、下記により現地説明会を行います。

◆日時：平成26年8月3日(日) 10:30～11:30

◆会場：町方遺跡

\*調査区B区…駅前・旧岩手銀行駐車場前

\*調査区C区…旧岩手銀行近接地

◆内容：近世(江戸期)の遺構(組石遺構、建物跡など)及び出土遺物(近世陶磁器、銭貨、木製品、金属製品など)の説明



〈問い合わせ〉  
埋蔵文化財調査課 TEL 55-5159

## 教育委員会 定例会レポート (5月)

5月定例会は、29日に開催され諸般の報告に続いて議案2件が審議されました。

#### 【諸般の報告】

町内小中学校の運動会・体育祭について、子どもたちと先生方が一体となった取り組みで、行事をととした主体性の育成と体位体力の向上が期待されると成果が報告された。

#### 【審議事案】

①大槌町学校給食センター運営委員会委員の委嘱について

### ふるさと科・はまぎく若だんな会出前授業 たんけん・発見! 大槌町

5月16日、大槌小学校の3年生のふるさと科に「はまぎく若だんなの会」のメンバー4人が地域の先生として、大槌の宝物である魚介類を使った授業を行いました。

授業では、同会が先頃作成した「大槌のお宝マップ」から大槌の特産であるウニ、ホヤや今が旬の魚、真マスを素材に、ふるさと海の宝物に対する思いや栽培や漁の方法などを説明しました。

子どもたちの中には、殻つきのウニやホヤを見るのが初めてという子もあり、目の前でむいたりさばいたりするのを驚きと関心を持って見入っていました。

ふるさと科では、こうした体験活動とおしてふるさとに対する愛着やキャリア(進路や職業観)を養い、地域に誇りを持ち、地域を支えていく人材を育成します。



委員の人事異動等による辞任に伴い新任委員を委嘱する

- ・大森厚志氏(大槌中学校校長)
- ・関谷俊美氏(吉里小PTA会長)
- ・芳賀新氏(吉里中PTA会長)
- ・岡本克美氏(総務部財政課長)

②大槌町小中一貫教育校推進協議会の設置について  
平成27年度導入の小中一貫教育の学園名やPTAなど学校関係組織を検討・決定する協議会を設置

#### 〈委員構成〉

小中学校長4名、各小中学校保護者代表8名、各地域代表4名、副校長代表2名

## 釜石・大槌地区中総体結果

6月14、15の両日、地区中学校総合体育大会が開かれ、大槌中、吉里吉里中の選手が日頃の練習の成果を発揮し、上位入賞者は県大会出場を勝ち取りました。

#### 【大会結果(3位入賞以上)】

##### ◆剣道

- 男子団体 2位 大槌中学校
- 女子個人 2位 佐々木佳陽(大槌中)

##### ◆柔道

- 男子個人 55kg級 1位 山崎 力(大槌中)
- 66kg級 2位 山影亮太(大槌中)
- 女子個人無差別級 1位 倉澤杏奈(大槌中)

##### ◆野球

- 3位 大槌中学校

##### ◆卓球

- 男子団体 1位 吉里吉里中学校
- 男子個人 1位 三浦蒼陽(吉里中)
- 2位 黒沢 蓮(吉里中)
- 3位 藤原周平(吉里中)
- 4位 竹澤瑞生(吉里中)

- 女子団体 2位 吉里吉里中学校

##### ◆ソフトテニス

- 男子団体 2位 大槌中学校
- 男子個人 2位 佐藤逸樹・新田亮介組(大槌中)

##### ◆バスケットボール

- 男子 3位 大槌中学校
- 女子 3位 大槌中学校

##### ◆バドミントン

- 女子個人 3位 黒澤琴音(大槌中)

##### ◆サッカー 1位 大槌中学校

\*太字は県大会出場

県大会での健闘を祈ります!

# まちのお知らせ

## 夏休み、霞が関へ親子で行こう

文部科学省をはじめとする府省庁などが連携して、親子職場見学会を行います。子どもたちが夏休みに広く社会を知る体験活動として、親子で参加してみませんか。

■対象 全国の小・中学生（原則として保護者同伴）  
 ■期間 8月6日（水）・7日（木）  
 ■内容 職場見学のほか、各府省庁などの特色を生かし、子どもたちを対象に広く社会を知る様々なプログラムを設け、一斉に「子ども霞が関見学デー」として開催します。当日は、子どもたちの興味にあわせて霞が関を自由に歩くことができるよう、参加者に各府省庁などのプログラムと地図が入った「日本国霞が関子ども旅券」（パスポート）を配布します。

☎ 学務課 学校教育班 Tel 0193-42-6100

## 家族や地域の大切さに関する作品コンクール

内閣府では、子育てで家族やそれを支える地域の大切さに関する「写真」「手紙・メール」を募集しています。あなたのあたたかい気持ちを作品にして応募してください。

■募集内容  
 ○「写真」  
 (1) 子育てで家族の力（子育てで家族のきずな、子どもと深める家族のきずな）  
 (2) 子育てを応援する地域の力（地域ぐるみで子育て支援）  
 ○「手紙・メール」  
 (1) 小学生の部 (2) 中・高校生の部 (3) 一般の部

子育てを家族みんなで支え合うことの大切さ、感謝などの思いを伝える内容のもの。子育てを社会も応援していくことの大切さを訴える内容のもの

■募集期間 7月1日（火）～9月8日（月）  
 ■表彰 募集テーマ 区分ごとに最優秀賞1点、優秀賞5点以内。いずれも、内閣府特命担当大臣（少子化対策）表彰と副賞。  
 ◆応募方法など詳しくは内閣府「家族の日」「家族の週間」ホームページに6月末頃掲載予定（<http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/family/index.html>）  
 ☎ 保健福祉課 地域福祉班 Tel 0193-42-8715

## 法テラス無料相談のお知らせ

日本司法支援センター（法テラス）では弁護士、司法書士、その他の土業の専門家が皆さまの相談に応じています。一人で悩まず相談してください。

また、弁護士による休日相談や夜間相談も実施しています。曜日により専門家が異なりますので、電話にて確認予約をお願いします。

■相談時間 10:00～16:00（平日）  
 ☎ 法テラス大槌 Tel 050-3383-1350 電話受付時間（9:00～17:00）

## 町内各地の放射線量についてお知らせします

町内の放射線量測定結果についてお知らせします。6月25日（水）に測定した結果は下の表のとおりです。なお、国の除染基準は0.23 毎時マイクロシーベルトです。

☎ 町民課 町民生活班 Tel 0193-42-8713

測定地点	放射線量	測定地点	放射線量
小鎗小学校仮設団地	0.055	大槌第5仮設団地(和野橋下流)	0.071
小鎗仮設団地(佐野屋球場)	0.057	金沢小グランド	0.048
大槌町役場	0.065	桜木町中央公園	0.057
安渡第2仮設住宅(旧小学校)	0.069	源水(屋敷前)	0.061
赤浜小学校グラウンド	0.057	大ケ口公園	0.063
吉里吉里中学校仮設団地	0.067	沢山地区(高森団地)	0.063
吉里吉里第5仮設団地(駅公園)	0.063	沢山地区(郵便局脇)	0.065
吉里吉里第2仮設団地(浪板)	0.063	花輪田定住促進住宅裏	0.053
大槌第7仮設団地(大槌橋下流)	0.061	測定地点平均値	0.061

【訂正のお知らせ】平成26年6月5日発行「広報おつち No.584」12～13ページの、大槌町津波避難マップにおいて、避難場所（高台）・避難施設名に誤りがありました。下記のとおり訂正し、お詫び申し上げます。  
 (誤) ①蕨打直託児所 → (正) ①蕨打直集会所

## おめでた・おくやみ（敬称略）

5月15日～6月15日分

### 【出生】

岩間 あまね（学・白・沢）  
 藤川 隼（昭・衡・吉里吉里四）  
 白沢 風紗（真・吾・吉里吉里四）  
 伊藤 萌那（啓・沢・山）

### 【婚姻】

{ 杉山 将司（盛岡市）  
 { 阿部 るり子（元村）  
 { 藤原 大輔（上町）  
 { 志斎 恵（釜石市）  
 { 関谷 暁生（吉里吉里四）  
 { 菅野 悦子（宮古市）

### 【死亡】

祝田 繁（76・桜木町）5/18  
 阿部 豊治（90・元村）5/22  
 佐藤 忠重（88・吉里吉里四）5/24  
 岩間 清（59・安渡一）5/26  
 馬淵 重雄（79・源水）6/2  
 佐々木 ミツ（90・沢山）6/2  
 兼澤 喜久子（77・新町）6/4  
 松田 タカ（89・大ケ口二）6/6  
 藤原 チヤ（92・赤浜二）6/7  
 佐々木 功（63・須賀町）6/13

## 7月中旬に国民健康保険税の納税通知書が発送されます

今年度の納税通知書からコンビニエンスストアでの納付ができるようになりましたが、コンビニエンスストアでは納期限までしか納付はできません。

納め忘れが無いように町税の口座振替をおすすめします。

### ■口座振替が可能な金融機関

岩手銀行、北日本銀行、花巻農業協同組合、岩手県信用漁業協同組合連合会、東北労働金庫、宮古信用金庫、ゆうちょ銀行

■口座振替日 各納期の25日（25日が休日などの場合は直後の開業日）

■申込方法 各金融機関窓口を設置しています申込書に記入押印していただきます。

■注意 申込書提出日によっては振替ができない場合があります。

年金や給与から差し引かれる町税は口座振替の対象外です。

1月下旬には前年1月～12月に口座振替で振替された証明書を郵送します。

☎ 税務会計課 収納班 Tel 0193-42-8711

## 人権相談について

身のまわりで起きた人権問題（いじめ、虐待、家庭内暴力、離婚、扶養、相続問題、近隣関係、セクハラ、借金問題、その他困りごと）について、法務大臣から委嘱を受けた人権擁護委員が相談に応じます。

■日時 7月18日（金）10:00～12:00 ■会場 大槌町役場1階 相談室2  
 ☎ 町民課町民生活班 Tel 0193-42-8713

## 大槌町地域子育て支援センター「かりん」からのお知らせ

大槌町地域子育て支援センター「かりん」では、子育て親子の交流の場の提供や、子育て家庭への育児支援を行っています。7月の行事は下記のとおりです。お気軽にご参加ください。

「のびのび広場」（あそび・つどいの広場）

■実施日時 月曜日～金曜日（祝日除く）  
 9:30～12:00 13:00～16:00

■対象 未就学児とその保護者（祖父母も可）  
 ■内容 みんなが自由に集える場。子育ては一人じゃない。みんなで育てる共有の場。  
 ※7月24日（木）午前中は、のびのび広場はお休みです

「リズムくらぶ」

■実施日時 7月3日（木）10:00～11:30  
 ■対象 未就園児とその保護者（祖父母の方も可）  
 ■内容 親子で楽しくリズムあそびをしましょう

「すこやかくらぶ」

■実施日時 7月10日（木）10:00～12:00 13:00～14:00  
 ■対象 産前・産後のママ・未就園児（0歳～）の親子、その他お産後の自分の身体でお悩みの方  
 ■内容 助産師と母乳の悩み・身体の悩み・育児の悩みなど相談できます。赤ちゃんの体重測定・ベビーマッサージの方法など。

☎ 大槌町地域子育て支援センター「かりん」（大槌保育園内） Tel 0193-42-2570

## 行政相談について

行政相談委員が相談に応じます。  
 ■日時 7月18日（金）10:00～12:00  
 ■会場 大槌町役場1階 相談室1  
 ■相談委員 若生 晃さん  
 ☎ 総務課総務班 Tel 0193-42-8710

「6月7月生 お誕生会」

■実施日時 7月17日（木）10:00～12:00  
 ■対象 未就園児とその保護者（祖父母の方も可）  
 ■内容 6月7生まれのおともだちのおたんじょう会を開催。生まれ月に関係なく参加できます。

「臨床心理士相談」「かりんカフェ」

■実施日時 7月28日（月）9:30～12:00 13:00～14:30  
 ■対象 未就園児とその保護者（祖父母の方も可）  
 ■内容 かりんカフェでは、温かい飲み物とお菓子を用意しています。毎日忙しいママさんのための「かりんカフェ」で一息つきましょ。臨床心理士の土屋先生による育児や心の悩み、家庭の悩みなど一人で抱え込まないで、是非相談にいらしてください。

「ひだまり広場」

■実施日時 7月31日（木）10:00～11:30  
 ■対象 未就園児とその保護者（祖父母の方も可）  
 ■内容 ひだまり広場の日はお外あそびを楽しみます。お外を元気いっぱい親子で遊びましょ。

## 大槌町カレンダー 7月7日（月）～8月5日（火）

日付	大槌町内イベント	大槌病院外来
7(月)	4・7か月児相談	午前:内科、眼科 午後:内科、整形外科
8(火)		午前:内科、外科、皮膚科 午後:内科、皮膚科
9(水)		午前:内科、皮膚科 午後:内科
10(木)	心配ごと相談	午前:内科、外科 午後:内科
11(金)		午前:内科 午後:内科
12(土)	日本脳炎予防接種	完全休診(急患受付なし)
13(日)		完全休診(急患受付なし)
14(月)		午前:内科、整形外科、眼科 午後:内科
15(火)	日本脳炎予防接種	午前:内科、外科 午後:内科
16(水)	2歳6ヵ月児相談	午前:内科 午後:内科
17(木)	さわやかストレッチ教室 元気活いき運動教室	午前:内科、外科 午後:内科
18(金)	1歳6ヵ月児相談 行政相談、人権相談	午前:内科 午後:内科
19(土)	日本脳炎予防接種	完全休診(急患受付なし)
20(日)		完全休診(急患受付なし)
21(月)		完全休診(急患受付なし)
22(火)		午前:内科、外科、皮膚科 午後:内科、皮膚科
23(水)		午前:内科、整形外科、皮膚科 午後:内科

日付	大槌町内イベント	大槌病院外来
24(木)	元気活いき運動教室	午前:内科、外科 午後:内科
25(金)	四種混合予防接種	午前:内科 午後:内科
26(土)		完全休診(急患受付なし)
27(日)		完全休診(急患受付なし)
28(月)		午前:内科、整形外科、眼科 午後:内科
29(火)	日本脳炎予防接種	午前:内科、外科、皮膚科 午後:内科、皮膚科
30(水)		午前:内科、皮膚科 午後:内科
31(木)		午前:内科、外科 午後:内科

8月		
1(金)		午前:内科 午後:内科
2(土)	みどり幼稚園一般開放	完全休診(急患受付なし)
3(日)		完全休診(急患受付なし)
4(月)		
5(火)		

※大槌病院外来日程は都合により変更となる場合があります。  
 ※みどり幼稚園一般開放では町内の未就園児の子どもを対象に園を一般開放します。 ■時間 9:00～11:30まで  
 ※心配ごと相談は、大槌町社会福祉協議会で実施しています。相談内容についてはお問い合わせください。  
 ☎ 大槌町社会福祉協議会 Tel 0193-41-1511

# 大槌学のすゝめ

## ⑮ 「淡水型イトヨ」の緒ちよ その1

### 編集後記

▼今回、新山高原まつりが行われた新山には風力発電用の風車が43基設置されています。鉄塔の高さは約60メートル、羽根の大きさは約30メートルにもなります。その巨大さには、どこか現実離れたものを感じることができません。天気の良い日はドライブのついでに風車を見学に行くのもいいかもしれませんね。(台野) ▼震災からの復興に、生業なまわいの再生が欠かせません。働く場がなければ、人口減少に歯止めをかけることが出来ず、新しいまちづくりは頓挫とんざしかねません。そのために町は、地元企業の再興と企業誘致に全力を注いでいます。今月号から始めた「産業復興だより」は、復興に立ち上がり、頑張る企業を紹介する産業振興部によるコーナーです。読者を元気づけるコーナーをめざします。(但木)

「呼び水」。大辞林には、「本来の水をさそい出すための水の意」、①ポンプで揚水するとき、ポンプまたはそれに連なる吸い込み管の中を水で満たすこと。また、その水。さそい水。迎え水。②ある物事の起こるきっかけとなる事柄。

平成11(1999)年6月17日のこと。日本万国博覧会(大阪万博)会場跡地にある国立民族学博物館教授(当時)、秋道智彌氏が来町。相生啓子氏(当時、東京大学海洋研究所助教授、船越湾のタチアマモが世界最長であることを世に知らしめたアマモ研究者)が紹介してくださり、午後の半日、休暇を取って、町内各所をご案内。源水の孵化場ふかに行った折、池にいる小魚が話題に。この時期にいるというのであれば、「ちよっとおもしろいかも」と秋道教授は話されました。そして翌朝、急遽、山崎三雄町長(当時)を表敬訪問、「研究会を大槌で行います」と伝えました。この小魚が「イトヨ」です。

秋篠宮殿下は、この研究会の一員として参加されました。大槌町へのお成りは、このときが二度目。一度目は、昭和59(1984)年7月22日、学習院大学一年生の殿下は、学習院高等科在学中に所属していた地理研究会の夏季巡見に同行され、ご昼食のために、大槌ホテル(当時)に立ち寄られました。

その年の11月10日と11日、浪板観光ホテル(当時)を会場に、その研究会は開催されました。神奈川県葉山町にある、総合研究大学院大学、教育研究交流センターの共同研究「生命系における循環と共生研究会」の共同研究者が大槌に集結。大槌町かいたせの海棲哺乳類(宮崎信行氏、当時、前出海洋研究所教授)、海草(相生氏、前出。かいそう、海藻と区別するため、うみくさ、とこも)、小魚(拙子)に

ついて話題提供。その小魚が、通年いるのであれば、所謂「陸封型」かも知れない、と議論が集中。秋篠宮殿下からも、「生物多様性に配慮した保全を期待する」とのご発言をいただきました。

翌年4月、拙子は企画の係に。平成12年度の「調査計画推進打合せ」を経て、平成13年に「淡水型イトヨ調査委員会(委員長、秋道教授)」を発足、森誠一教授(岐阜経済大学)への町からの調査委託により、正式には「湧水環境保全検討推進委員会」に移行。平成14(2002)年11月6日、城山公園体育館を会場に、「自然と共生するまちづくりシンポジウム〜淡水型イトヨ生息環境保全と水循環を考える〜」を開催。

まさに「呼び水」となった共同研究会。秋道教授の来町がなければ、どうであったでしょう。正確な日付は、震災前、海洋研究所に残されていた宿泊記録から確認した。オトコは、日付には無頓着、一方、女性は記念日などを正確に記憶しているのだとか。真偽のほどはわかりませんが……。

「良い環境の保全には、そこに住んでいる人の協力が不可欠。押しつけではなく、イトヨならイトヨに興味を持ち、住んでいる地域を理解し、大事な環境を保全していたきたい」と、秋篠宮殿下はご発言されました。

(大槌町教育委員会事務局生涯学習課長 佐々木健)

